

令和4年度 第2回 江別市社会教育委員の会議

日 時：令和4年10月20日（木）15時30分から17時00分まで

会 場：教育庁舎 大会議室

出席者：社会教育委員 委員長 井上 大樹	教育委員会：教育部長 伊藤 忠信
副委員長 藤田 昌之	教育部次長 佐藤 学
委員 辻 麻紀	生涯学習課長 田中 紀克
委員 藤田 くみ子	スポーツ課長 堀井 修
委員 竹島 美智代	情報図書館長 表 誠
委員 北川 智浩	郷土資料館長 櫛田 智幸
委員 木滑 幸江	青少年係長 左川 貴久
	文化振興担当主査 橋本 梨江
	社会教育主事 中田 稜子
	生涯学習係長 佐藤 愛子

傍聴者：なし

会 議 録	
1 開会	
2 教育部長あいさつ	
3 委員長あいさつ	
4 (1) 第10期江別市社会教育総合計画策定方針及び現計画の点検・評価について	
井上委員長	<p>次第4、議題の(1)第10期江別市社会教育総合計画策定方針及び現計画の点検・評価についてですが、まず策定方針についての説明をお願いします。</p>
生涯学習係長	<p>それでは、資料1を基に、第10期江別市社会教育総合計画の策定方針について説明いたします。別紙1をご覧ください。はじめに、社会教育総合計画は、江別市の社会教育行政推進のために、5年毎に策定している計画で、この計画に沿って各種の事業を推進しています。現在の「第9期の計画」が、来年度で終了することから、「第10期計画」の策定方針を次のとおり定めるものです。</p> <p>まず、1の計画策定の背景と趣旨ですが、現在の計画の策定にあたりましては、計画書の10ページに記載のとおり「計画の基本理念」と3つの「基本目標」を設定しております。人口減少や少子高齢化をはじめ、地域や家庭の教育力の低下、新型コロナウイルスによる新しい生活様式など、社会を取り巻く環境が大きく変化する中、社会教育に対する人々の意識やニーズも多様化し、地域における課題も複雑化を増しています。このような状況は個人の価値観や生活意識にも変化を与え、経済情勢や貧困問題、格差社会などの要因も加わり、今後も私たちの生活やものの考え方など、様々なところに影響を与え続けていくものと考えられます。</p> <p>2015年9月、国連サミットでSDGsが採択され、地方自治体においても、SDGsの理念を踏まえ、誰一人として取り残さない社会づくりを目指した取組が求められていま</p>

す。また、平成30（2018）年12月の中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」においては、「社会教育」を基盤とした「人づくり・つながりづくり・域づくり」が重要な社会教育の役割とされました。こうした社会背景を踏まえ、江別市の社会教育においても、一人ひとりが生きがいを持ち、自分らしい人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指し、市民のための社会教育を推進していくことが必要です。

次に、2の計画策定の基本的な考え方ですが、上位計画である「江別市総合計画」をはじめ、記載のとおり、江別市の各種計画との整合性を図りながら、また、令和5年度に新たに策定される国の基本計画や道の推進計画にも注視するとともに、市民のための社会教育行政を推進するため、まちづくり市民アンケートや市民の意見・要望の把握に努め、江別市の地域性を踏まえた計画の策定を目指します。さらに、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた、学びを止めない社会教育の在り方について審議を進めたいと考えております。策定方針については、以上です。

次に、別紙2の江別市社会教育総合計画の策定の根拠等についてですが、第1回会議の説明と重複しますので省略させていただきます。

井上委員長

ただ今、第10期江別市社会教育総合計画策定方針について説明がありましたが、委員の皆さんから質問、意見等はありませんか。

私から確認が1点あります。SDGsを取り上げることは重要ですが、江別市としてSDGsを推進するような明文化された施策、計画などがありましたら教えてください。

佐藤生涯学習係長

現在、上位計画である江別市総合計画の第7次計画の策定作業を進めているところです。第7次総合計画でSDGsの視点を取り入れた策定作業を進めていることから、本計画にも盛り込んでいくものです。

井上委員長

SDGsに書かれている内容は、今の日本の地域づくりに欠かせないものだと認識しております。ここをしっかりと押さえておくと、総合戦略等に示されるような、自治体サバイバルにも敵うものだと思っている。様々な連携の一つ、つながりの理念的な核になるかなと思っていますので、非常に歓迎すべき傾向だと思うが、社会教育に取り入れるにあたっては、2点留意しなければならないことがありますので、予め申し上げておきます。1点目は、SDGsについての市民の意識を高めていくにあたって相当な部分を生涯学習社会教育で担わなければならないと思っている。その時に、目標が明示されていることから啓発啓蒙主義的に広めていく傾向があることが個人的に危惧される。本来SDGsは誰一人取り残さないと言っている以上、一人一人の問題関心中からSDGsにつながるものが引き出されてしかるべきだと思っているので、推進の仕方、特に学習啓発面においては一人一人の意思を尊重するという、SDGsに書かれている17番目の目標をしっかりと守られていくことが必要であるかなと思っています。

2点目としては、関わりはあるわけですが、SDGsを達成した行動をとることが地域づくりもそうですし、一人一人の暮らしが向上しなければ意味がないものだと思っています。このあたり、個々の指標を達成するということ、あるいはそれを推進するにあ

	<p>たって個別の目標の推進に目が奪われることがないようにして、一人一人の住民の暮らしが向上するということ、あるいは地域が活性化するところをしっかりと指標等には加えて、住民の暮らしのレベルでのチェックをしっかりとできるような形を作っていくことを、社会教育計画もそうですけど、SDGs推進政策の課題との関係では留意をしていただきたいところでもあります。</p> <p>基本的な方針ということですし、今後具体的な議論を深める中で、場合によっては自主研修等で、特にSDGsは十分に広まっている言葉でなかったりしますので、自主研修等を挟みながら効果的な計画を作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、続いて現計画の点検・評価について説明をお願いします。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>続きまして、現計画の点検・評価についてですが、別紙3の第9期江別市社会教育総合計画成果指標一覧をご覧ください。この成果指標の評価につきましては、計画に基づいて行ってきました事業や取り組みについて総合的に検証し、次の計画における事業の更なる推進を図るために実施するものです。評価方法ですが、現計画では、成果指標を14項目設定しております。社会教育委員の皆様には、それぞれの項目につきまして、平成29年度の初期値から見た中間値と、最終年である令和5年度の目標値との比較、並びに「成果指標の達成状況」を基に、5段階で評価していただきたいと考えております。評価（案）が5段階で記載されておりますので、この評価について、委員の皆様からのご意見・課題をお伺いしたいと思います。次の段階として、次期計画から除外すべき成果指標、新たに加える成果指標を検討していただいた内容を社会教育委員の会議としてまとめて参ります。現計画の点検評価については以上です。</p>
井上委員長	<p>ただ今、説明のありました評価方法ですが、成果指標で設定した14の項目について、平成29年度の初期値から見た令和3年度の中間値と目標値との比較、達成状況を基に「社会教育委員の評価」の案が5段階で記載されていますので、この案にご意見をいただいて評価をまとめていきたいと思えます。いかがでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>新型コロナウイルスの影響は想定外のことであるが当然計画には入っておりませんが、この部分はどのように反映させましょうか。あるいは反映させないといった考え方もあります。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>2か年にわたり新型コロナウイルスの影響を受けているのが現状ですので、その部分も考慮した上で点検評価をお願いしたいと思います。次期計画においても、コロナ禍の収束が見えない状況ですので、現計画の評価を反映させて次期計画に活かしたいと考えています。評価が難しい部分もありますが、ご意見をいただきながら進めていきたいと思えます。</p>
井上委員長	<p>コロナの影響はありつつも、立てた目標との関係でいったん評価をしていき、分析のところで、それが新型コロナウイルスなのか、実は違う問題なのかを分析していくという押さえでよろしいでしょうか。</p>

藤田副委員長	<p>公民館の子育て支援事業について、コロナの影響で減少していることはやむを得ないと思いますが、中央、野幌、大麻と公民館あって、江別の場合は地区によって年齢層が違うと思います。これは一つの公民館で実施されたものでしょうか、三つの公民館で実施されたものでしょうか。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>三つの公民館で実施された子育て支援事業の参加者数を合算した数値を記載しております。</p>
藤田副委員長	<p>地区別にばらつきはありますか。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>本日資料を持ち合わせていないためこの場で報告ができませんが、各公民館ごとの数字は押さえています。</p>
藤田副委員長	<p>後日で構わないので教えてください。 ※令和3年度／中央 280 人＋野幌 575 人＋大麻 60 人＝915 人</p>
井上委員長	<p>他にありませんでしょうか。評価の前に確認しておきたいことがありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>それでは、順番に評価を進めていきたいと思います。まず、家庭の教育力の向上の「公民館の子育て支援事業の参加者数」について、これは実際に対面で参加した人の数という押さえでよろしいでしょうか。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>その通りです。</p>
井上委員長	<p>この評価の案は、「3 あまり目標を達成していないが、上昇傾向がある」となっていますが、これについていかがでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>達成状況について、新型コロナウイルスによる公民館等の施設の休館や各団体の活動の自粛により参加者数が減少している、とコメントがありますが、相違ないと考えてよろしいでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p>

井上委員長	<p>続いて、「家庭の教育力向上を支援するサービス等の利用者数」の評価案は2となっているが、これについていかがでしょうか。数値は大きく減っていますが、主催者都合による影響が大きいわけですが、そのあたりを加味した上で評価案2はやむを得ないと判断しますが、いかがでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p>
井上委員長	<p>続いて、「学校・家庭・地域の連携がとれていると思う市民割合」の評価案は2となっていますが、これについていかがでしょうか。</p>
辻委員	<p>連携は何を指しているのかなと思いました。例えばコミュニティスクールの開催回数なのか、全体的に市民が思うところなのか。コミュニティスクールもコロナでなかなか開催できませんでしたが、学校も地域も頑張っていたと思います。この評価を見て、学校や地域が頑張っていることが市民には伝わっていないと感じました。市民の皆さんが、何をもって連携だと思われるのかなと思いました。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>記載の数値はまちづくり市民アンケート集計結果で、抽出した市民が回答したものです。子供たちの教育に学校・家庭・地域が連携している、コミュニティスクールや土曜広場などの事業が該当します。</p>
辻委員	<p>コロナ禍においてコミュニティスクールも土曜広場も開催が難しい中で、連携が目に見えていない、そこだけにスポットがあたってしまい、普段行われていることが評価されていないのはとても残念です。市民割合が低いという結果からみて、市民には伝わりづらいということを認識しました。</p>
井上委員長	<p>割合からすると5%ほどの減ですが、これをどう見るかは非常に難しいところがありますし、更に、アンケートの性質からすると見える化しているかどうかなので、場合によっては趣旨と違う評価の仕方にならざるを得ないのかなと思います。このような事態は予想されていないこともあるので、次期計画の評価の仕方は工夫が必要かもしれません。他にありませんでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>今のような問題点があっても、この基準に当てはめようとする、2が妥当であると言わざるを得ないのかなと思いますが、評価の仕方に課題があると留意したうえで、この評価でやむを得ないと思いますが、いかがでしょうか。</p>
藤田副委員長	<p>アンケートだけで評価するのは難しいですね。土曜広場は、学校や地域と連携が取れていると思います。11月26日に最後の仕上げで土曜広場のつどいが野幌公民館で開催されま</p>

	<p>す。地域の指導者や子供と保護者など相当な人数が参加しますが、それを知らない人がたくさんいるということは、もう少し市民にわかりやすくPRしていく必要があると思います。</p>
井上委員長	<p>この項目については、残念ながら当事者間の取り組みが十分に反映されない指標であったので是正していきたいと思います。</p> <p>次に「学校が地位交流の場として活用されていると思う市民割合」ですが、これも8%弱の減少がみられます。2という評価ですが、いかがでしょうか。</p>
竹島委員	<p>感染リスクを避けるために外部の方を制限せざるを得ないですし、この評価で仕方がないのかなと思います。少しずつではありますが、令和2年度より3年度、3年度より4年度と、受け入れているのではないだろうかなという感触はあります。しかし、数値として、以前のようにではないと感じていることについては致し方がないと考えます。</p>
井上委員長	<p>感染症対策の関係から、交流の範囲を関係者のみというところから始めなくてはならない点からすると、地域全体という形で学校に出入りするの難しいですが、少しずつ取り組みが戻りつつあるように思います。目標値の令和5年度には活動量は回復している可能性もあります。数値的な目標評価との関係でいくと2ということになりますが、今後の施策については活動が推進される方向で行政がバックアップ、あるいは市民に広げるという観点で、皆さんと検証していきたいと思います。</p> <p>次に「ボランティア活動や体験学習活動に参加する児童生徒の割合」ですが、2という評価について、何か意見はありませんでしょうか。</p>
藤田委員	<p>評価を設定した平成29年には、まさかコロナになるとは思ってもいなかったでしょうから、評価の2は厳しいとは思いますが、コロナウイルスの影響で評価が下がっているのはやむを得ないなと思いました。今後は少しずつ上向きになっていくのではないかなと希望を持っています。</p>
井上委員長	<p>参加者数に比例するものですので、現状としてはこの評価でやむを得ないと思います。</p> <p>では次に「子育て環境が充実していると思う保護者の割合」ですが、3という評価について、何か意見はありませんでしょうか。</p>
辻委員	<p>若い世代の方たちが江別に家を建てて転居してきていて、働くお母さんの働きやすい環境ですとか、幼児教育や保育サービスの充実は求められていると思います。小中学校でも、コロナになってから、子供たちが感染しないように、先生方が日々消毒してくださったり、一人一台のタブレット端末という環境になってきているところも、目に見えて子育てしやすい街・江別ということが少しずつ市民の方にも分かっていたのではないのでしょうか。住みやすい街になっていくためには、そう思ってもらえる取り組みが必要でしょうし、アンケートをとって半分の方にそう思ってもらえていることは素晴らしいことだと思います。引き続き割合が増えていくことを希望しています。</p>

井上委員長	感染症対策でデジタル化が急速に進んで、タブレットの配付が進みました。情報モラル教育についての課題についてもフォーラム石狩等で議論されてきたことだと思います。学校での取り組みについて、竹島委員にお願いしてもよろしいでしょうか。
竹島委員	今年度の9月から小学校1、2年生にタブレットが配付され、これで義務教育全ての学年に配付されたこととなります。その間、市教委からの支援員やICTの支援員も入って、先生方の研修や支援をしていただきましたので、先生方が子供たちに指導するバックアップも非常に良かったと感じています。平成29年の初期値が45.6%で、令和3年度に若干下がりましたが、ほぼ令和2年度と同じくらいで初期値よりも伸びてきています。目標値に達していないから評価が3だと思いますが、4でもいいのではないのでしょうか。
井上委員長	私も同意見です。この項目は堅調な評価を得ていると判断し、評価は4へ引き上げてよろしいでしょうか。
	(一同了承)
佐藤教育部次長	次の項目から、まず事務局側から評価案についての考え方を説明し、それについて委員の皆さんに協議していただく形で議論を進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。
	(一同了承)
佐藤生涯学習係長	基本目標Ⅱ学びを支える生涯学習の推進、基本方向が3項目、成果指標が4項目あります。上から3項目の成果指標については、初期値と中間値である令和3年度の数値を主観的に比較し、いずれも上昇傾向がみられたことから評価を4としました。一番下の「学習した成果を、まちづくりやボランティア活動に活かしている市民割合」については、初期値と中間値の単純な比較では数値が上がっていますが、平成30年度と令和元年度に上昇傾向がみられていたものが、令和2年度には半分近くまで割合が減っていました。令和3年度に少し数値が盛り返していたので、評価を3としました。
井上委員長	まとめて説明いただきましたが、これについて質問、意見がありましたらお願いします。コロナ禍にもかかわらず、上3項目が堅調な評価を得ておりますが、北川委員、何かありませんでしょうか。
北川委員	基本的なことになりますが、市民割合というものが今一つイメージができません。まちづくり市民アンケートという説明がありましたが、いつ行ったか、アンケートの方法が電話なのか書面なのか、どの場所で回収しているのか、回答率や回答した市民の年齢構成、男女比、どういう性格の方々の回答をもとにしているのか、基本的な部分があると評価について判断しやすかったです。
佐藤生涯学	まちづくり市民アンケートは、政策推進課が毎年度行っているもので、調査の対象者は、

習係長	江別市在住の満18歳以上の市民3,000人です。対象者の抽出方法は、4月1日時点の住民基本台帳により、全人口に占める地区別（江別・野幌・大麻）、男女別、年齢階層別の人口比率に応じて3,000人を無作為抽出しております。配布数は3,000件、令和4年度に行ったアンケートの回収率は44.2%、5月11日から31日まで実施していました。対象者には郵便で送付し、同封の返信用封筒で回答を回収しています。
井上委員長	回収率が44.2%とのことでしたが、他の年度と比較して大きく変わっていないという理解でよろしいでしょうか。
佐藤生涯学習係長	申し訳ありません。昨年度以前の資料を持ち合わせていないため、お示しすることができません。
井上委員長	郵送式ということでしたので、回収率はそんなに大きく変動するものではないと思われませんが、北川委員、その上で何かありますでしょうか。
北川委員	いえ、ありません。次の基本目標Ⅲの数値が少なく、どうしたものかなと思っているところです。
井上委員長	一番下の項目ですが、実際の活動量の関係が大きいと思うのですが、なかなか目標どおりに伸びていないという評価になっています。この項目について、木滑委員いかがでしょうか。
木滑委員	学習した成果を、まちづくりやボランティア活動に活かしている市民割合ですが、実際に自分の行っている活動が、ボランティア活動や市民活動だという自覚が少ないのではないかなと思います。人の行動ではなくて自分の行動をみているから、数値がこの程度であることは理解できます。ただ、コロナ禍で23.1%と数値が上がってきているということは、少しずつ少しずつですが活動し始めているということが数字に表れてきているのではないのでしょうか。
井上委員長	知らないうちに、例えば、お手伝いという形で参加するパターンもありますが、これも本来この中に含まれることなんです。学習したものを意識的に活かすという意識は。実は以外に無いのかも知れません。では、原案どおりの評価としてよろしいでしょうか。
	(一同了承)
井上委員長	そのように確認しました。 次に、基本目標Ⅲについて、事務局から説明をお願いします。
佐藤生涯学習係長	成果指標は4項目を設定しております。「文化・芸術活動に参加している市民割合」については3とし、「過去1年間に文化施設を利用した市民割合」を4と評価していますが、改めて数値を確認しますと事務局の評価案の4と数値が合っていないので、ここで3へ訂正

	<p>してもよろしいでしょうか。最後の2項目については、郷土資料館から説明いたします。</p>
<p>楢田郷土資料館長</p>	<p>基本方向3の文化遺産の保存と活用について、「文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」の成果指標の達成状況は評価4、「郷土文化・歴史を学ぶ事業の開催数」は中間値でみると令和2年度から落ち込みがありますが、それ以前から上昇の傾向がありましたので評価を4としております。</p>
<p>井上委員長</p>	<p>「過去1年間に文化施設を利用した市民割合」は、原案を4から3に訂正しました。質問や意見はありませんでしょうか。</p>
<p>北川委員</p>	<p>私はセラミックアートセンターでワークショップをやっていますが、文化施設の利用者が生涯学習に対する充実度と比べて半分ほどの状態は少ないなという感想を持ちます。ワークショップもコロナで開催が中止、開催しても定員を半分にするなどして、密にならない工夫をしながらやってきました。その結果、携わる市民の方は少なくなったとは思いますが、何とか踏みとどめているという感想を持ちます。郷土資料館に関しては、2019年の東洋陶磁学会の際に、本州の学識者の先生と一緒に初めて郷土資料館を見学しました。素晴らしい展示物があるので、学校教育に大いに利用していただきたいなと思います。評価については、令和2年度までは開催されていますので、原案どおりでよいのではないのでしょうか。</p>
<p>竹島委員</p>	<p>令和2年度は休校期間が2か月ほどあったため、教育課程を編成し直して、外部に行く或いは外部から講師を呼んでの講座を諦めざるを得ませんでした。令和3年度くらいから、様子を見ながら実施できるようになってきていますので、この評価で問題ないのではないのでしょうか。</p>
<p>辻委員</p>	<p>文化・芸術活動とはどんなものが該当するのかなと思いました。自分で何かに取り組むことなのか、学校の部活で吹奏楽部や合唱部での活動も含まれるのか、とても範囲が広く感じました。コロナ禍で、主体的に行っているけれども、北川委員がおっしゃったように、人数を制限して工夫をしてやっているところもきっとたくさんあったと思います。それが、表面的に市民の方には見えていなかったということなのではないのでしょうか。アンケートに回答する方も、文化・芸術活動だけでは分かりにくかったのではないかなと思いました。例えば、お祭りに参加することが該当するとか、アンケートに例示がないと自分がイメージしているものが該当するものなのかどうか、回答できないのではないのでしょうか。とても抽象的でぼんやりしているので、評価しにくくて数値が低かったのではないかなと思いました。</p>
<p>佐藤生涯学習係長</p>	<p>成果指標の達成状況は、文化芸術に取り組むこともそうですが、鑑賞することも芸術活動に参加していることになりますので、鑑賞する機会、その情報が市民に届いていなかったため目標に達しなかったと考えまして、このように記載しました。</p>
<p>辻委員</p>	<p>芸術鑑賞の観点からという説明でしたが、アンケートの取り方が、セラミックアートセンターや郷土資料館等へ行きましたかとなっているのか、それとも、芸術鑑賞されましたか、</p>

	<p>という質問になっているか、どんな設問になっているのでしょうか。</p>
<p>佐藤生涯学習係長</p>	<p>まちづくり市民アンケートの設問は「あなたは日頃、文化・芸術活動に参加していますか」の記載のみですので、確かに分かりづらい部分があると思います。アンケートの質問項目や内容については、政策推進課から追加修正の依頼があった際に、具体の例示を検討するなど見直していきたいと思います。</p>
<p>井上委員長</p>	<p>全体のバランスも含めて確認してよろしいでしょうか。Ⅲの1と2の項目が、数値的にも若干ですが落ちていて評価が3となっています。Ⅰの2の地域の教育力の向上の2つの項目で評価が2となっています。同じ評価軸としては客観的にブレがみられるのではないかと思います。皆さんいかがでしょうか。</p>
<p>井上委員長</p>	<p>(質疑なし)</p> <p>踏み込んだ発言をさせていただくと、もしこの評価が、新型コロナウイルスの影響もあってこうなりましたという説明で全庁的に通るのであれば、つまりコロナが原因でこれ要らないというようなことにならないのであれば、あえて辛めの評価をつけておいて、だからここに力を入れてほしいという計画をつくる根拠になると思います。そういうロジックが通るのであれば、文化の方もあえて評価を2として、コロナで評価が落ちてきているのはまずいからテコ入れしましょうというメッセージを強く出すというのは、個人的な感覚としてはありだと思っています。議会や他の施策でこの評価がどのように扱われるか、そこが我々として何とも言えないので、そのあたりについてお答えいただける範囲で構いませんので、お願いできますでしょうか。</p>
<p>田中生涯学習課長</p>	<p>コロナの影響で休校もあり、2、3年度は社会教育施設も休館がありました。文化協会主催の市民文化祭もコロナで開催できなかつたり、イベントや文化に自ら参加する人たちは、その活動が休館等で制約を受けたり、鑑賞という意味では、団体が自ら企画した音楽や演劇や発表会などが出来なくて参加できなかったということもありますが、これは全庁的な傾向です。当初計画の策定時には想定全くし得なかつた、これは江別に限らず、日本に限らず、全世界にかかわるコロナの影響であります。ウィズコロナというように、このままでいいというわけではなく、規模を縮小したり内容を見直すなどの工夫をしながら、今年度からかなりの事業が再開してきております。コロナ禍でもいろいろな活動をしていこうという動きになってきていますし、新年度予算においてもそういう方向でおります。事業の組み立てや使命が終わったものと同じ考えにはなりませんので、コロナで落ち込んだけれど、それ以前を見ればまだまだ伸びていく余地、意義があるということで、積極的に推進する方向でありますので、そういった心配はないと思っております。</p>
<p>井上委員長</p>	<p>特に文化施策は、財政事情との関係で結構影響されると聞いています。今の回答を受けまして、環境的な要因で市民の意欲が落ちている中でも、達成できていないところは危機感を表明するという意味でも基準は揃えるべきだと思いますので、文化の上段2項目は評価を2と</p>

井上委員長	<p>したいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ここまで第9期計画の成果指標を受けての評価を進めてきましたが、全体を通して意見や質問はありませんでしょうか。</p> <p>(質疑終了)</p>
4 (2) 令和4年度 社会教育予算に係る補助金交付調書について	
井上委員長 田中生涯学習課長	<p>続きまして、議題の(2) 令和4年度 社会教育予算に係る補助金交付調書について、説明をお願いします。</p> <p>令和4年度社会教育予算に係る補助金交付調書についてご説明いたします。</p> <p>社会教育法第13条において、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の意見を聴いて行わなければならないとされています。これは、本来、自由で自主的な活動を旨とする社会教育関係団体に対し行政が補助金を支出することによって、団体に対して不当な統制的支配や事業の干渉が加えられることがないように、社会教育委員が行政をチェックする役割を担っているということです。このため、社会教育関係団体に対する補助金について、補助の目的や補助対象事項等を明らかにし、補助の目的はあくまで団体による社会教育活動の支援にあり、団体を支配したり事業の内容に干渉したりするものではないことを、社会教育委員の皆さんに確認していただくことが趣旨となります。社会教育関係各課が所管する補助金のうち、社会教育関係団体に対する補助金を対象としています。個人に対する補助や、施設整備に対する補助は対象としていません。</p> <p>それでは資料6ページをお開き願います。上から3段目の「生涯学習団体支援事業」は、江別市生涯学習推進協議会の活動に係る経費を補助するもので、当協議会では、生涯学習に関する講座を開催しているほか、生涯学習に関する情報を広報誌で定期的に発信するなど、市民の主体的な生涯学習活動を支援しています。下から2段目の「市民芸術祭開催支援事業」は、まちかどコンサート開催に係る経費を実行委員会に補助するほか、令和4年度は市民ミュージカルの準備に当たる年となるため、実行委員会に対し脚本や作曲などに要する費用を補助します。また、5年に1度開催している市民美術展受賞作品展と、新規事業であるまちなかアート月間のそれぞれの実行委員会に対し、開催に係る費用を補助します。一番下の段の「芸術鑑賞招へい事業」は、芸術鑑賞の機会を充実させることを目的に、舞台芸術分野のプロを招へいし、質の高い公演を企画する市民団体を支援するもので、音楽公演団体、演芸公演団体、演劇公演団体の活動を補助しております。7ページをお開き願います。上から2段目の「はたちのつどい開催事業」は、20歳(はたち)の年齢到達者を祝福・激励し、社会人としての責任と自覚を促すことを目的に開催する「はたちのつどい」に係る経費を補助します。なお、令和4年4月1日の民法改正に伴い、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられますが、式典の対象年齢はこれまでどおり20歳とし、これまでの「成人のつどい」</p>

	<p>から「はたちのつどい」と名称を変えて開催します。以上です。</p>
井上委員長	<p>ただいま、社会教育予算に係る補助金について説明がありました。こちらについて質問、意見等はございませんか。</p>
藤田副委員長	<p>補助金の額は千円単位でしょうか。</p>
田中生涯学習課長	<p>千円単位です。</p>
井上委員長	<p>ほかに何かありませんでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>それでは、提出されました令和4年度 社会教育予算に係る補助金の交付について、社会教育委員の会議として確認をした、ということで終了したいと思います。</p>
5 その他	
井上委員長	<p>次第5のその他について、事務局から何かありますか。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>計画の関係で2点あります。</p> <p>1点目は今後の予定ですが、10月27日の定例教育委員会で、次期計画の策定スケジュールについて説明を行う予定です。続いて、12月の定例教育委員会で、社会教育委員の会議で次期計画の立案をしていただくことを審議し、了承されますと、教育委員会から社会教育委員の会議に次期計画の立案について諮問されることとなっております。今回の社会教育委員の会議は、来年2月の開催を予定しています。</p> <p>2点目は専門部会の設置についてです。社会教育委員の中から5名を選出し、専門部会を設置することとなります。人選につきましては、正副委員長で案を作ってください、社会教育委員の会議の中で決定していただく方法が良いかと考えております。専門部会の5名の選出につきましても、次回2月の会議での決定を予定しております。</p>
井上委員長	<p>ただ今の説明について、委員の皆さんから質問、意見等はございませんか。</p> <p>(質疑なし)</p>
井上委員長	<p>机上配付資料について説明をお願いします。</p>
佐藤生涯学習係長	<p>11月22日(火)に千歳市で開催されるフォーラム石狩の開催案内です。ご都合がよろしければ是非ご参加願います。</p>

6 閉会	
井上委員長	<p>他に、委員の皆さんから質問、意見等はありませんか。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>以上をもちまして、令和4年度第2回江別市社会教育委員の会議を閉会いたします。皆さんお疲れ様でした。</p>